



新年のごあいさつ

藤本えつし後援会の会員の皆様。あけましておめでとうございます。  
それぞれのご家庭で、さわやかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、去年は、皆様の絶大なるご尽力により、「藤本悦志新市長」の誕生を実現していただきました。多くの市民が願っていた「新しい安芸高田市の出発」の夏となりました。このことは、後援会員の皆様のお一人お一人のご支援なくしては叶わなかったことと深く感謝しております。



年が明け、安芸高田市でも新年度予算の編成が本格化しており、やがて、藤本市政の方向性が示されます。大いに期待を持って見守っております。

立場によって、市民の皆様の主張は大きく異なります。これらの課題に対しては、「明確な解」は存在しないかもしれません。だからこそ、市民の幅広い多様な意見を吸い上げる丁寧な議論が必要になります。藤本市政の「一丁目一番地」である「対話からの前進」こそが大切であると思います。

後援会の皆様の引き続いての絶大なご支援をお願いし、新年にあたってのごあいさつといたします。

藤本えつし後援会 会長 上田隆之



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新しい年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

市長就任後、はじめての新年を迎えるにあたり、改めて身のひきしまる思いがいたしております。後援会の皆様はもとより、多くの市民の皆様にも引き続きご支援ご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

早いもので就任から半年が過ぎようとしています。懸案事項については、できるところからスピード感を持って取り組んでまいりました。市が被告となっていた裁判を終結させることとし、さらに、市役所開庁時間に関しては、まずは8時30分から電話対応するよう戻しました。

また、念願でありました「市民の皆様と市長との対話集会」を各町2回ずつ計12回の実施ができました。準備してくれた職員にも感謝しておりますが、何より参加いただいた市民の皆様にご心よりお礼を申し上げます。

現在、来年度の予算編成に向けた各部との協議が最終段階にきています。厳しい財政状況ではございますが、持続可能な安芸高田市の実現を目指し、職員とともに知恵を出し合い、全力で邁進してまいります。

本年が皆様にとってより良き年になりますことを念願し、新年のごあいさつとさせていただきます。

安芸高田市長 藤本悦志



## 対話からの前進

～藤本悦志安芸高田市長にインタビュー～

— 半年を終えられて率直な感想・自己評価いかがですか？



市民の皆さんあるいは職員にしっかり支えてもらいながら一日一日を進んできました。前向きな気持ちで仕事をさせてもらっています。

— 市長は「対話からの前進」をスローガンに掲げておられますが、市長がお考えになっている対話とは？



やっぱり行政というのは、市民と心と心が通じる、そういうふうにはやらないといけないと思うんですよ。いろいろな形の対話がありますが、私は、対面で話をする中で、お互いが分かりあえたり見方が変わったりしたという声をたくさん頂いたので、やっぱり今後なるべく多くの市民の皆さんに直接お会いして対話するという機会を増やしていきたいと思っています。

— 議会との対話は進んでいますか？



一般質問が増えたんですよ。私が市長になっての9月議会と12月議会では16人中13人の議員の方が質問をされました。一般質問が増えたということは議会との対話が活発化していくことにつながるのではないのでしょうか。全員協議会への出席要請にもしっかり応えていくつもりです。議員と市長は、立場は違えど安芸高田市の為にという最終的に目指すところは一緒ですから。

— 「市役所が明るくなったね」という声も聞くんですが、職員さんとの対話はいかがでしょう？



職員にはなるべく積極的に声をかけています。例えば、市長室にもトイレはあるんですが、そこは使わずに職員や市民の方が使うトイレを使っています。そこで職員と会えば声をかけて職員とコミュニケーションをとるようにしています。

— 開庁時間をもとに戻すことについてはなかなか難しいと記者会見で言われていましたが、電話対応の時間をもとに戻されましたよね。職員さんと積極的にコミュニケーションをとってきたことがいい影響をもたらしましたか？



開庁時間の変更は職員の提案から始まったことでもあり、そこは時間をかけてやるとして、ひとまず電話対応については、8時半から電話が鳴る中、出ずに仕事をしているという状態があるわけです。一方、市民の方は、日中は仕事なのでその時間しか電話出来ないということもあると思うんです。職員はその間ずっと電話が取れないという状況ではないので、そこはもう市民サービスということで、そういう話を関係職員に具体的にしていきました。その結果、理解を得られたから、電話対応についてはもとに戻して時間を早くすることが出来ました。

— 職員さんとの積極的なコミュニケーションの成果が出ましたね。市役所内の会議でも対話が盛んですか？



はい。しっかり議論しています。私は、日頃から職員が話しやすい雰囲気を作りたい、かたい雰囲気には



したくないと思っています。理詰めではなく、まず思いを受容し、柔らかい言葉でやり取りをしたいんです。そうすることで職員からも斬新なアイデアが出てきたり、思わぬ本音が聞けたりします。

— 市民との対話ということでは、さっそく中学校統合がテーマの「対話集会」を実行されましたが、その中で感じたことは？



市民の皆さんは財政が厳しいのはすごく感じておられました。だから、無駄な統合はするなというのはどの会



場からも出ました。要は生徒数が減り続けていくことは分かっているのに、今過剰な投資をする必要があるのかと。今1校に統合しても10年後には4割ぐらい教室が余りますから。

— これから中学生との対話もされるそうですが、そのねらいは？



今は大人の都合、大人目線での議論じゃないですか。当事者である中学生がどう思っているかという視点も必要です。自分らから見て、後輩がどういう中学校で学んで欲しいのかなどを聞きたいです。

— 最後に2025年に向けての課題を挙げてもらえますか？



まず財政の問題です。公共施設削減も避けて通れない問題です。現在、新たな市の総合計画のなかにも私のマニフェストを取り入れて、具体的に事業をどう展開するか検討中です。優先順位をつける必要があります。

2番目は、中学校の統合、認定こども園など、未来への投資ですね。統合の件は、今後、中学生の意見や対話集会での市民の皆さんの意見を踏まえて検討していきたいと思います。認定こども園については、子どもたちの安全を最優先させ、スピード感をもって取り組みます。

3番目は、高齢者の介護予防です。体操教室の回数や教室への参加者を縮小したことは、少なからず高齢者の医療費高騰につながっているのではないかと考えています。個人の健康管理は全て自己責任でやってくださいというのではなく、行政が高齢者の健康を維持していく為のきっかけを作り、お手伝いをしていく必要があると思います。もちろん昔のように財政が潤っているわけではないですから、全てを市の方でやることは出来ませんが、やはり自助努力だけでなく、公助共助という考えは大切だと考えています。

4番目は地域振興です。これまでの地域振興のやり方だけでは限界がある地域も出てきています。地域振興の為に新たな仕組みを作り、例えば人的な支援などができないかなど検討していきます。

市長、本日はインタビューに答えていただき、ありがとうございました。これからも直接出向いていただき、市民の「声」にしっかり耳を傾けてください。誰も置き去りにしない「あったかいまち・安芸高田市」の実現に向けて市民といっしょに歩みを進めていただくことを心より期待しています。

(紙面の都合上、インタビューの中身を割愛させていただいたところがあります。詳細はHPに掲載しています。)



## 2024 活動の歩み



国際芸術祭・京都平安神宮



ふれあいサッカーフェスティバル



市老連 グランドゴルフ大会



下佐振興会 敬老会



eSports大会 in 甲田



市老連 ゲートボール大会



広島県内消防団規律訓練大会



県立向原高等学校体育祭



第41回一心祭り

藤本えつしの活動情報をもっと身近にお届けするために、公式 LINE を開設しました。ぜひご登録いただき、藤本えつしの活動にご注目ください。



発行 藤本えつし後援会 会長 上田隆之  
〒739-1801  
安芸高田市高宮町川根 2137-2  
TEL 070-8973-4540  
Email [fujimoto.etsushi@gmail.com](mailto:fujimoto.etsushi@gmail.com)



フェイスブック



X (旧ツイッター)



ホームページ

